

留学報告書

21014088

国際文化学科

国際学部 野口大貴

はじめに

私は、8月31日から1月9日までの約4ヶ月の間、中国北京にある北京師範大学に留学していました。師範大学には様々な国の学生から社会人に至るまで多くの方が留学生として来ており、幅広い文化や思想を持った人々が集まり、交流していました。その様な人々に触れていく中では多くの刺激や発見がありました。同じアジア圏でありながら私は隣国の韓国・中国はもとよりパキスタン・ベトナムやフィリピンやタイ等多くの国に対して先入観からしか見る事が出来ていませんでした。中国と聞いて頭に浮かぶものは汚い空気や低クオリティで価格の安い商品等、中国というだけでマイナスに見てしまうことが少なからずありました。戦争のイメージやムスリム等の我々日本人にとってあまり馴染みのない宗教であるというだけで勝手に自分のイメージを当てはめ、発展途上国という国に対しては知らぬうちに心のどこかで優越感を抱いていたのかもしれませんが。私が留学に行くことを決意した理由というのもそもそもは中国という国が好きだったからというわけではなく「異文化に触れてみたい」「外国人の友達が欲しい」この二つが主な要因でした。留学生活では本当に多くの喜怒哀楽があり一部分ではありますが紹介していきます。





授業について

師範大学につくと語学力テストなるものがありその点数や面接の評価によってそれぞれの語学レベルに合わせたクラス分けが行われていました。クラスは大体 20 人程で日本の一般的な中学校の教室の約半分程の小さな教室で授業は行われます。クラスメイトの国籍は様々ですがやはりアジア圏の人々がヨーロッパ圏の人達に比べると多かった印象でした。その中でも特に韓国人留学生が北京には非常に多くきており校外等でもあちらこちらで見かけ、私のクラスにも 5 人の韓国人がいました。

授業は、「聞き取り・書き取り・会話」この 3 つが基本となっています。私達はその他に太極拳など幾つかの授業を受けましたが語学勉強という面では基本的にはこの 3 つの授業だけでした。授業ではネイティブの先生がパワーポイントを使いながらなるべくわかりやすく教えてくれます。しかし最初の 2 か月位は簡単な説明も聞き取れず理解出来ない場面も多くあり、質問されても答えられない或いは問題を聞き間違え誤解答をしてしまう場面も少なくありませんでしたがクラスの雰囲気はとても良くミスに対して苦痛に感じるということはありませんでした。クラスメイトも分からずに困っている場合には積極的にジェスチャー等で優しく面白く教えてくれます。分からなかったものが分かった、または伝えなかったものが伝えられたという喜びはとても大きいものでもありました。授業では先生によって様々ではありますが多くのクラスが常に賑やかな授業でした。授業中には課題として自分の国について何度かプレゼンテーションを行います。日本の「良いところ」を自分を媒体にして海外の人々に情報発信できるだけでなく、同時に新潟県の良さについても多く

のことを伝えることが出来ました。海外の人々が知っている日本というものは殆どの場合には東京・大阪・京都・奈良・福岡のどれかであって新潟県について知っている人は少ないどころか皆無でした。お互いの国の魅力を伝え合い、留学が終わったらお金を貯めて必ず新潟に遊びに行きたいとクラスメイトに言われた喜びというものは言葉では表しきれないものがありました。授業について語学力の点についてみれば必ず上がると断言することができます。授業では最初に日常生活の際に重要な単語や使い回しを学習していきます。授業後のランチタイムやスーパー等ではこれらの授業で学んだ内容を使えるといった場面が多くあります。週末には校外へと出かける際に学習した単語を使う機会が多くあり、初めはうろ覚えだったものが実体験を通して行く中で一つ一つの単語に対しても思い出ができていき知らぬ間に体に染みついていきました。単語力が徐々に増えていき留学の後半のほうでは個人差はありながら少なくとも先生の話している簡単な中国語の7割以上は理解できるようになっていたと思います。語学力が上がると共にクラスメイトと簡単な中国語ではありますがコミュニケーションが取れるようになるため授業を最後までとても楽しく受ける事ができました。



生活習慣について

北京での時間割について。語学テストによって決められたクラスによって様々であり、私の場合では週4日間は朝八時から授業が開始するために早起きが必要でしたが課題や自習をするにあたって2時3時と遅くまで勉強をすることがしばしばあり、慣れるまでは一番辛かったことでもありました。大学内には学生食堂・売店・スーパー・レストラン等が至るところにありました。営業時間も学校内とのことで朝6時半頃から多くの店が開店し始めます。私は出発前に抱いていた不安要素の大部分というものは汚染空気でもなく食事の面でした。加熱処理の関係上アイス等冷たいものは危ない、必ずお腹を下すなど周りから散々言われたことから三秒ルールとして地面に落ちたものでも対して気にせず食べてしまう私が相当身構えていました。結果的には全く問題なく、寧ろ中華料理など中国の食についての考え方などについて多くの発見がありました。その一つとして日本料理と中華料

理では作り手の考え方がそもそも違うということです。日本料理では料理を作る際に大前提として調味料の存在意義というものは材料の味を際立たせ、引き立てる為としての役割を補っていますが、中華料理では材料に対し調味料で如何に美味しく味付けをするかという前提で調理を行っていました。必然的に中華料理は平均的に味付けが濃い料理が多く、濃い味付けが好きな私にとっては非常に多くの料理を美味しく食べることが出来ました。その為中国の食文化については多く触れる事ができました。北京の気候の点についてはpm2.5の問題を除けば新潟よりも遥かにいいと言えます。とにかく雨が降らず湿度が低く空気が乾燥していることから洗濯物が良く乾くなどいい点が多くありました。pm2.5についても我々日本人がニュース等で時より目にする茶色い汚染された空気というものは一ヶ月に一度あるかないか位の頻度であって普段はマスクをしなくてもなんら支障はありませんでした。また、生活をする中ではとにかく交通事情が便利でありました。バス・地下鉄などにしてもあらゆる所に駅があり、時刻表等はありませんでしたが頻繁に来るため何ら問題ではありませんでした。バスでは路線によっては寒い中で15分程待つことはしばしばありましたが地下鉄に関しては大体の場合発射してから次の列車が来るまでの時間というものはせいぜい5分ほどでした。価格面でもバスは基本的に20円から40円、地下鉄はどこまでいっても100円程ですみます。タクシーに関しては地域により一様には言えませんが比較的高いとされている北京でさえも初乗り料金は240円で、ワンメーターは20円程で利用することが出来ます。また公共交通機関であれば利用する際には地下鉄の駅などで作ることの出来る交通カードというものでどこでも利用する事が出来ます。また高齢者に対しては無料で利用可能であったりと高齢者に対しては優しい社会環境でもありました。便利な一方で交通ルール等に関しては多くの面で問題が挙げられます。歩行者としても運転者としても非常に多くの人々が日常的に信号無視を行っている為日本のように青信号を過信し左右の確認をせずに危険な目に会うことが初めの頃は何度もありました。





留学生活について

留学生活においては本当に充実した日々を過ごす事ができました。私は日本から中国に留学するにあたって出発前に自分の中で幾つかのルールを設けていました。常に自分から積極的に行動するという事。受身で声をかけてもらうのを待っているのは出会いに限界があるということ。二つ目にできる限り日本人村に参加しないということです。少なからず日本人との交流は日本でも出来ることであり、語学や交流するという面ではデメリットが多いからです。三つ目は必ずこの4ヶ月の留学で単なる友達ではなく帰国後も繋がりがつづけていられる親友と呼べる友人を作るということ。留学では親しい人々や両親からはなれ海外の留学生と一定期間同じ空間で学び、生活をするというのが醍醐味の一つに挙げられます。貴重な体験の中でゼロから作り上げた関係を帰国を理由に終わらせたくなかったからです。今更ながら私は語学の面においては圧倒的に準備不足の状態で行ったために留学当初は簡単な挨拶や自己紹介すらもままならない状況でした。その中でどのように友人関係を広げていったかと言えば大きく三つありました。1、新潟に留学中に知り合った北京在住の大学院生。2、師範大学の日本語学科の学生。3、クラスメイトです。1について、私はこの留学生活において最もお世話になり、多くの観光地へ出向き、最も美しい北京ダックをご馳走してくれた中国人のホンピンという友人がいます。彼女は以前に新潟大学に一年留学にきておりその際に開かれた交流会で出会いました。私達の中国語コースからは12人が中国にいったわけですが私は最も多くの苦難にも直面したと感じています。ホテルに到着後日本から送った荷物が次々に到着しましたが私の荷物はいつまでたっても到着しませんでした。私達には私生活等で困った際に頼るようにと師範大学で日本語を先行している学生が一人ついていてその方に連絡をとると、もう少し待って下さいとのことでした。しかしいつまでたっても連絡が来ることはなく一ヶ月が経とうとしていました。その為彼

女に相談をしたところホテルのフロントや郵便局や税関に至るまで調べてもらい結局は税関の倉庫でとまっているとの事がわかりました。荷物を受け取るにしても指定された場所で複雑な手続きが必要とのことで、朝早くからバスの駅が20以上も離れた場所まで案内してくれました。荷物が到着するまでは約一ヶ月半かかりその間の生活用品に関しても彼女がネットで購入し私のホテルまで届けてくれました。また携帯をタクシーに落としてしまうということがあった際には道路の監視カメラの映像を確認しに警察署にあるモニタールームに入るといっても貴重な経験などもできました。なぜそこまで彼女は私に親切にしてくれたのかというと少し留学前に戻り新潟での出来事だと思っています。初めて出会った交流会というのが7月25日のことでした。どんな観光地へ行ったのか等ありふれた会話をしている中で私はもっと他にも日本の良いところは沢山あるのに知らぬまま帰ってしまうのは勿体無いのではないかと感じ、8月5日のテスト期間が終わった翌日から彼女が帰国する8月15日までの10日間を毎日のように出かけ、できる限りの場所を案内しました。上越のイルミネーションや山奥での流れ星観測・仙台の牛タン・山形県の蔵王温泉や駄菓子屋巡りなど多くの場所を観光するという事がありました。彼女が帰国する際には次は私が留学生になるから案内頼むよ！とお願いをし、彼女は快く引き受けてくれました。北京に行ってからというもの4ヶ月半の間彼女は忙しいにも関わらず毎週毎週観光地等を案内してくれました。私は新潟で出かけていた際に、ガソリン代なんかの交通費を彼女は払おうするので代わりに北京に留学して帰国する時期になったら最高の北京ダックをご馳走してくれというお願いをしていました。クリスマスの日には五道口駅の近くにある最高級の北京ダックを彼女をご馳走してくれました。その北京ダックは彼女の月の食費の半分以上もする高価なもので味は然りこの喜びもまた忘れることはできません。また彼女のルームメイトとも何度も何度も出かけました。みな25歳と年上ですが年齢差は一切感じさせず優しくユーモアにあふれ人間的にもとても暖かい人達でした。続いて師範大学の日本語学科の学生について。北京師範大学では多くの学科があり、その中には日本語学科もありました。9月に入りすぐにその日本語学科の学生との交流会がありました。そこで私はある学生と話している中でとても大きな衝撃を受けた話がありました。お互いに語学力が十分ではないため常に辞書で調べながら会話をしますが私の普段の感覚では辞書を引くという行為自体に対して少なからず面倒くさいとこれまでは考えていましたが彼女達は楽しそうに辞書を引き意味が分かるととても嬉しそうな顔をしていたのです。私はある時に辞書を引くのが楽しいのか聞いてみると彼女は楽しいと答えます。学ぶことは楽しいし幸せなことなのだといいます。この言葉を普通に言っただけの彼女は本当に凄いと思います。また彼女のルームメイトにツーティンという学生がいました。独学で日本語を勉強し現在では日本語学生の誰よりも日本語が話せるという凄い人でした。また教科書で学んだ日本語ではないために日本語学生と三人でご飯を食べていると日本語学生は、この料理とても美味しい。といった綺麗な日本語に対してかツーティンは、この料理めっちゃうめえ！と、かなり砕けた日本語を使っていたため常に楽しく笑いがたえませんでした。彼女は強

烈な親日家でもあり必ず機会があれば日本へ行くといっていたのでいつか私が案内出来る日が来ることを切に願っています。三つ目にクラスメイトです。普段生活するなかでは一番接する機会が多く国も様々でしたが特に韓国人が多く同じような見た目から謎の親近感を覚えすぐに打ち解けることができました。また四川旅行に行った際に往復50時間以上も寝台列車に乗ったわけですがここでは多くの韓国人の友人ができました。韓国人の友人に韓国料理食べたいのだけどいいお店知らないかと尋ねると何度でも喜んで連れて行ってくれ、韓国式の乾杯やサムギョプサルの通な食べ方などを教えてくれました。彼女達とは韓国料理だけでも10回以上食べにいきました。ある韓国人の友人が帰国する前日の最後の夕食の際には四人の韓国人に混じって一緒にパスタを手作りしお寿司やケーキを買ってみんなで食べました。その日の気温は-7度という極めて寒い日にも関わらず泣いてしまった私をホテルまで送るよと薄手のトレーナーだけで寒くて帰る前に逝ってしまうかもしれないわと笑いながらいっていた彼女たちの事を忘れることはできません。





最後に。

私はこの留学を体験させて頂き多くの事に気付くことができました。留学前と今とでは中国は勿論のこと外国に対しての味方というのも多少なり変化したと感じています。悲しいことに私の周りでは出発前には楽しんで来てね、ではなく気を付けてね。帰国語は楽しかったでしょ？ではなく大変な事とか沢山あったでしょう？と言われる。韓国に対しては近年流行している K-POP の影響で良いイメージを持っている学生は多くいます。しかし中国という国に対しては圧倒的にマイナスのイメージが強いのが現状です。実際に4ヶ月の留学では中国の良さというものについては計りしれない程多くの魅力がありました。中国では日本以上に率先して高齢者に席を譲るなど自分勝手な中国人像というのは日本のメディアが作っている中国人像でしかありません。中国人だからといって道路に唾を吐き信号無視をしている人達だけではありません。私の中国人の友人の中には家庭が裕福ではないために家計を切り崩しながら学校へ通い、かならず将来は親が働かなくても生活できるまでの仕送りができるようになって親孝行したいのだという思いを胸に一日15時間近く勉強している学生などもいます。このような人達もいるのだと言うことをより多くの人に伝えていながら更に中国人との交流を重ねていこうと考えています。このような体験をさせてもらった両親には本当に感謝しています。ありがとうございました。